



人生の7年計画をつくりました！



皆さん、お盆休みはエンジョイされていたでしょうか？
僕は外へ出るのがイヤなので、エアコンの効いた事務所で
人生の「7年計画」というものを作っていました。

年間計画を作って行動することはありましたが、7年という
スパンで計画を作ったのは初めて。なぜ、7年計画なのか。
7年もあれば、凡人の僕でも大きな目標を設定し達成できる
と思ったからです。例えば、難易度の高い資格取得とか、
語学の習得など、7年もあれば達成できるはずです。

ということで、7年計画を簡単に説明します！

まずは7年後に達成したい目標を決めます。僕の場合、「健康」「資産」「自己改革」「社会的な幸福」という
4つのカテゴリーを設定して、それぞれ2つの目標を作りました。目標を作る時のコツですが、計測可能な数字
を入れたり、ハッキリ分かる現物があったりすると良いでしょう。僕は、数字を入れるとモチベーションが
知らぬうちに上がるタイプです(笑)。

次に8つの目標を達成するために、初年度の年間計画を作ります。さらに年間計画の内容を12等分して、
月間計画を作成します。さらに月間計画を4~5等分して週間計画を作っていきます。

週間計画は7日間で行う課題やワークを作ります。7年計画から毎日行うワークまで、出来るだけ数字を入
れた目標を設定して書き出していきます。

7年計画 → 年間計画 → 月間計画 → 週間計画 → 1日で行う課題やワーク

何も特別なことをやるわけではありません。上記の枠を見れば分かると思いますが、7年計画で作った大き
な目標を細分化して、毎日行う課題やワークまで落とし込む。毎日の課題やワークを堅実にこなしていけば、
7年後に達成したい大きな目標に着実に近付いていきます。

お盆休みに作ったのは7年計画、初年度の年間計画、月間計画、そして9月の週間計画です。毎日行う課題
やワークは、実施日の前日に作ります。

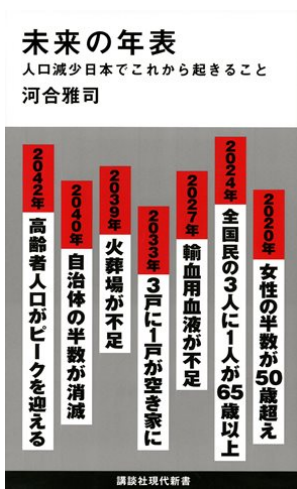
ちなみに、7年計画から毎日の課題やワークに至るまで、しっかり管理するためのフォーマットも作成しま
した。特に毎日の課題やワークを書き出して、達成の有無を記録する「日報」がカギになると考えています。

それから4つのカテゴリで設定した大きな目標ですが、内緒です(笑)。人に話すと自分の中からエネルギーが逃げてしまうと考えているからです。皆さんも計画作成した後は、他人には言わないようにしてください。

もしも7年掛からずに8つの目標を達成した時には、その時点で新しい7年計画を作ります。年間・月間・週間の各計画も、前ページに記載した要領で作ります。なんとなく早く達成するような気がします。

7年計画のプロセスを実行して大きな目標を達成した場合、このプロセスを分かりやすく体系化して、教材を作り、セミナーを企画して開催しようと考えています。皆さんの参加をお待ちしています(笑)！

「未来の年表」を読みました。そして戦慄しました！



さて、今回ご紹介する本は、「**未来の年表** (講談社、¥821、河合雅司著)」です。**少子高齢化による人口減少が進行**していくことは、皆さんも何となく理解されていると思います。では、近い将来や未来にはどのようなことが起こり、何が問題になるのか。様々な統計資料やデータから導き出した「答え」が本書に書かれています。**著者は「静かなる有事」と名付けて、警鐘を鳴らしています。**

個人のライフプランも企業の事業計画も、この本に記載されて内容を考慮に入れることが必要であると思います。今後、クライアントの戦略構築や事業計画の策定の際には、経営者に講読を薦め(場合によっては強制)、共通の問題意識を持った上でコンサルティングを行っていきます。僕自身、7年計画を作成したことも決して思い付きではなく、「静かなる有事」に対する備えなのです。

まず、本書の冒頭部分をご紹介します。「**日本が少子高齢化社会にあることは、誰もが知る『常識』である。だが、その実態を正確にわかっている日本人は、いったいどれくらいいるだろうか？私は仕事柄、国会議員や官僚、地方自治体の首長、経済界の重鎮たちと接する機会が多いのだが、政策決定に大きな影響力を持つ彼らであっても、正確にはわかっていない。(P3)**」

そして、「おわりに」の冒頭にはこう記されています。「**わずか50年で日本の総人口は現在の70%の水準となり、100年後には40%にまで落ち込む。しかも国民の半分近くが高齢者という歪な社会が到来する。社人研が描き出した日本の「最新未来予想図」は極めて厳しい姿であった。ここまで凄まじいペースで人口が減っていくのでは、日本社会はあらゆる場面で混乱に陥るだろう。(P196)**」

本書の内容がそのまま現実化するかどうかは分かりませんが、近似値にはなると思います。この後も本書を何回も読み込んでいきます。できれば、購読された方々と問題意識を共有する場として、**勉強会の開催を検討**しています。個人として会社として、これからの対応を参加者と意見交換したいと考えています。やる時にはニュースレターでお知らせしますので、ご検討ください！

オクムラ経営コンサルティングオフィス ニュースレター編集部
〒540-0034 大阪府中央区島町2丁目2番3号 サハム天満橋 402
TEL06-6920-3191 Email: m-okumura@1project-support.com http://www.1project-support.com
FAX06-6920-3192 Copyright 2017 オクムラ経営コンサルティングオフィス all rights reserved

発行人 奥村政治
発行日 2017年9月1日